

大学コンソーシアム熊本地域創造部会

「地域課題解決のための政策アイデアコンテスト」 ～ 熊本市の地域課題の趣旨説明 ～

熊本市 政策局 総合政策部
政策企画課

2022年6月21日

本日の内容

- I 熊本市の取組
- II 熊本市の地域課題
- III 取組の進め方(参考例)

I 熊本市の取組

市民が住み続けたい、誰もが住んでみたくなる、訪れたいまち、

「上質な生活都市」

を、私たちはめざします。

豊かな**自然**と**歴史・文化**に恵まれ、

あたたかい**ふれあい**に満ちた**地域**の中で、

お互いに支え合いながら**心豊か**で**幸せ**な暮らしが営まれ、

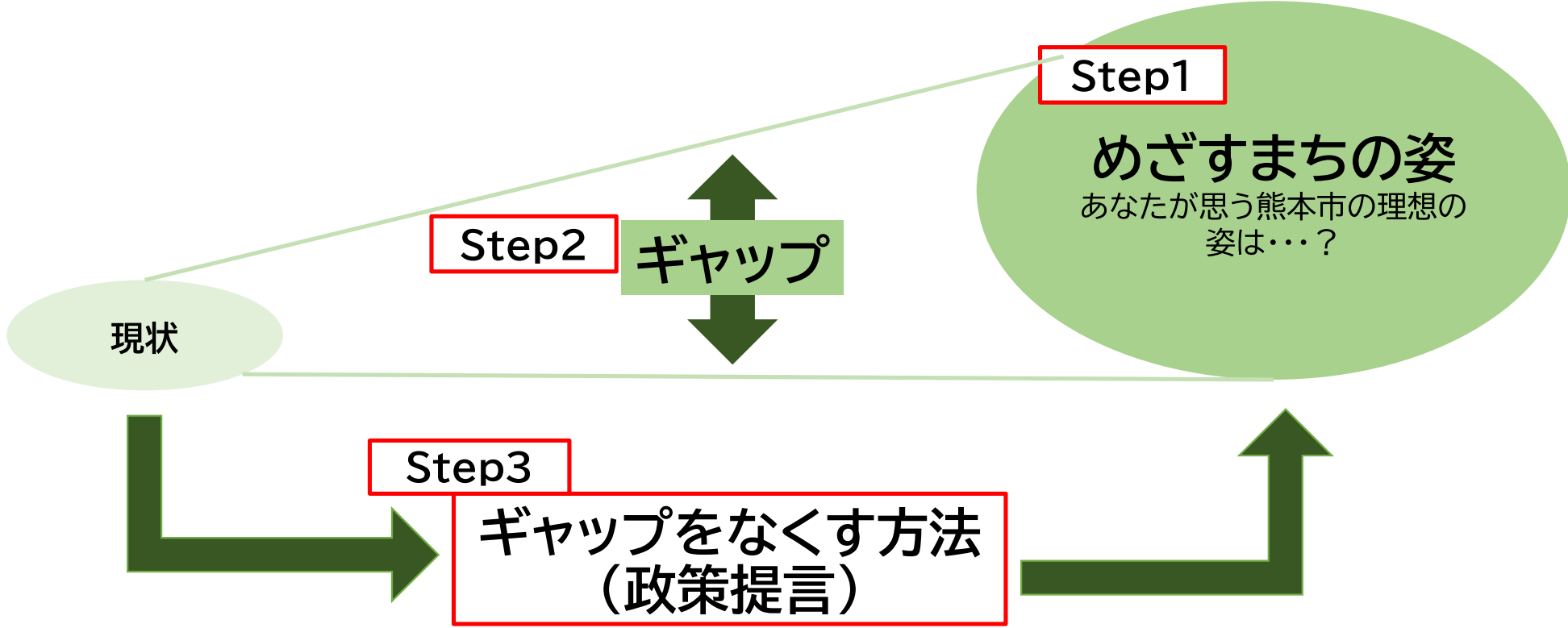
災害に強くだれもが**安心して暮らせる**まち。

そして、市民一人ひとりが、自分たちが暮らすまちに**誇り**を持ち、**夢**や**希望**を抱いて、いきいきと**多様**
な生活を楽しんでいるまち。

II 熊本市の地域課題

政令指定都市移行10年 今後の熊本市のあり方について

2012 2022 2032



Ⅲ 取組の進め方

Step1 めざすまちの姿の検討

Q

- 市民が住み続けたい、誰もが住んでみたくなる、訪れたくなるまちとはどのようなまち？
- 10年後の熊本市の理想の姿とは？

A

(例えば…)

- 行きたいところへスムーズに移動できるまち
- ごみのない美しいまち
- 地域のつながりが強いまち

皆さんが思う熊本市の理想の姿を検討してください！

Ⅲ 取組の進め方

Step2 現状の把握・ギャップの認識

■目的

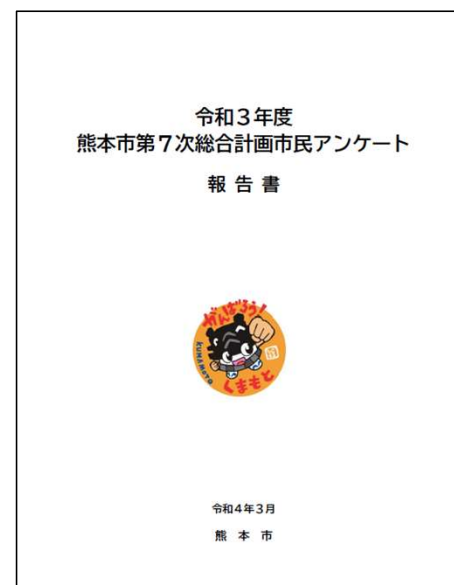
- ・理想の状態と現状にどのようなギャップがあるか把握する
- ・地域が抱える課題を洗い出す

■主な手法

- ・市民(地域団体等)へのヒアリング
- ・アンケートの実施
- ・市関係部署からの聞き取り
- ・文献、データ収集

■参考

- ・熊本市第7次総合計画市民アンケート



熊本市 総合計画市民アンケート

検索

Ⅲ 取組の進め方

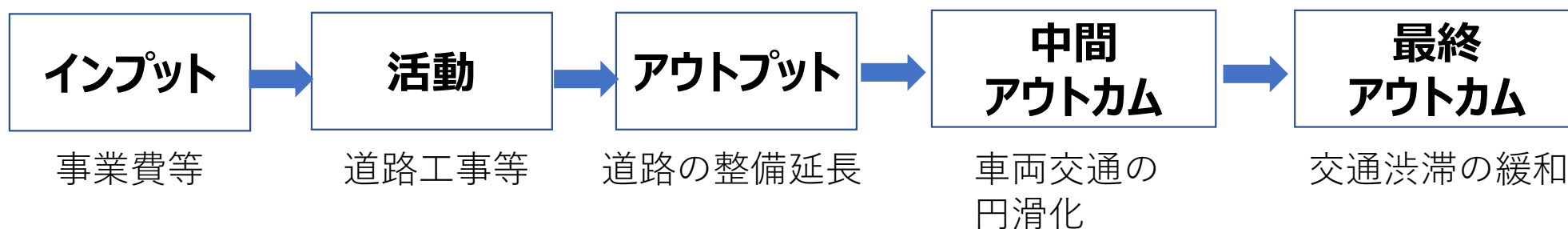
Step3 ギャップをなくすためには？ → 「ロジックモデル」を考えてみましょう

ロジックモデルは、事業や組織が最終的に目指す変化・効果(アウトカム)の実現に向けた事業の設計図
⇒立てた対策が解決すべき問題(目的)に対して適切な手段であることを自身で腑に落ちて、かつ第三者が納得できるように説明ができることが必要。

インプット :行政資源(予算額、事業費、従事した人員数、総労働時間など)

アウトプット:行政資源を投入して実施した行政活動の分量

アウトカム :行政活動により実現した成果の分量または質



Ⅲ 取組の進め方(参考例)

まちづくりの8つの分野

